



富士山防災アンケート

ご協力ありがとうございました。

富士山火山防災の取組の必要性が言われる中、富士山防災に関するアンケートを、富士山科学研究所の調査にセンターが加わる形で各学校のご協力をいただき、実施いたしました。結果の概略をお伝えいたします。

アンケートの詳しい結果や考察は、町HPにも掲載しますのでご覧になってください(12月上旬)

1 実施目的 町内に住む子どもたちの、富士山に関する知識と防災についての意識等を把握し、これからの富士山学習の基礎資料とする。

2 実施対象 富士河口湖町内および鳴沢村の小学校の3, 5年生・中学2年生の皆さん

(回答数) 小学校3年生 240名, 小学校5年生 226名, 中学2年生 234名 計700名

3 実施時期 2020(R2)年 5, 6月

4 結果

問1 富士山の成り立ち, 世界文化遺産

富士山の成り立ちについての「噴火をくり返して溶岩が積み重なってできた」は小3-81%, 小5-87%, 中2-100%でどの学年でもほとんどが正しく理解している。「これからも噴火する」は小5-74%, 中2-97%など、今後噴火する危険性があることも中学生で高くなっている。「富士山が世界文化遺産である」の割合は前回調査より高くなり、80%を超えた。教科、校外学習や総合的な学習等で富士山学習を実施し、さらに関係機関との連携した学習を実施していることで理解につながっていると考えられる。

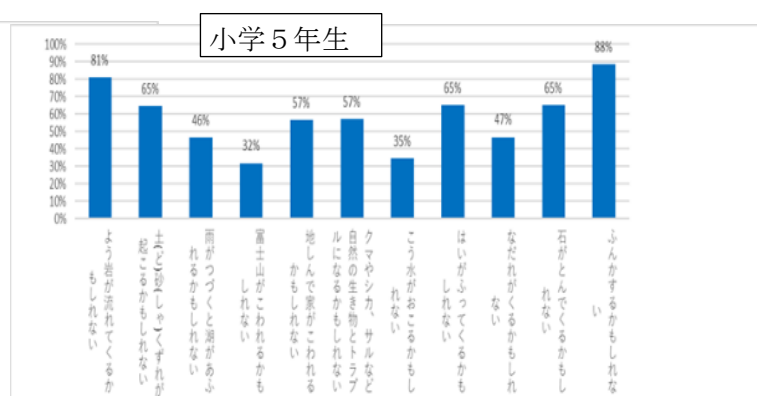
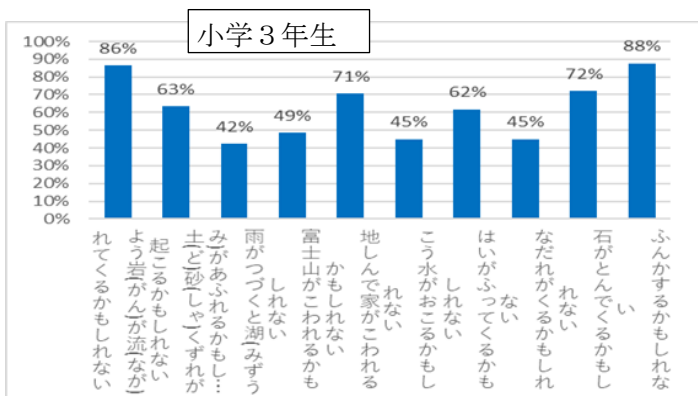
「富士山は古くからある山」は小5-82%, 中2-81%となっている。富士山は新しい山であると認識していない。山の古さ、新しさという視点で富士山及び周辺の山を概観するような学習があってもよいと考える。また、小学生でもわかるような教材が必要である。

質問2 富士山の近くに住んでいてよかったと思うこと

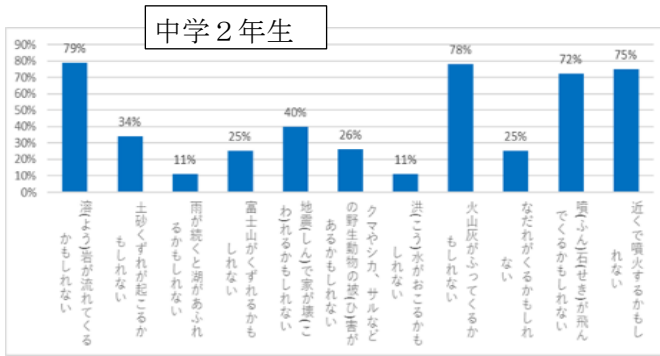
景観や自然の豊かさ、さらには水のおいしさなど富士山の魅力を感じ、複数回答であるが70%を超えている。火山であると同時に水の山でもある富士山について、その理由等水に関する学習も特色ある教材として扱えるのではないか。(富士山科学研究の出前授業にはある)

「多くの観光客が来る」の割合が低い。観光地としての良さは感じているが、子どもたちにとってのメリットはあまり感じられず、観光客増加に伴う渋滞、観光客のマナー不足等マイナス面の方を感じているものと思われる。そのうえで、住民の生活と観光が共存できる政策を考えるような学習が上級学年においてあってもよいと考える。

質問3 富士山の近くに住んで心配なこと



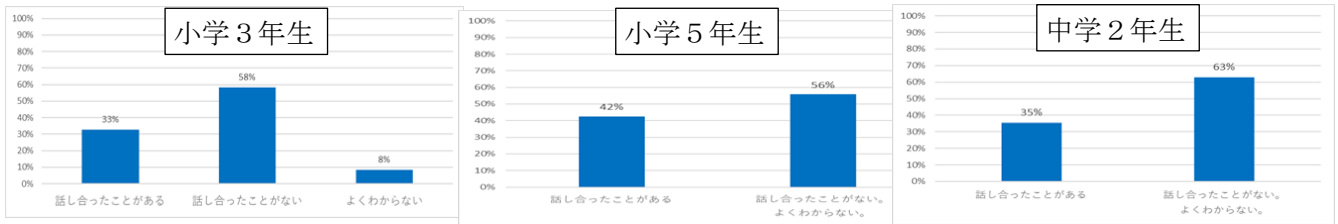
裏面に続く



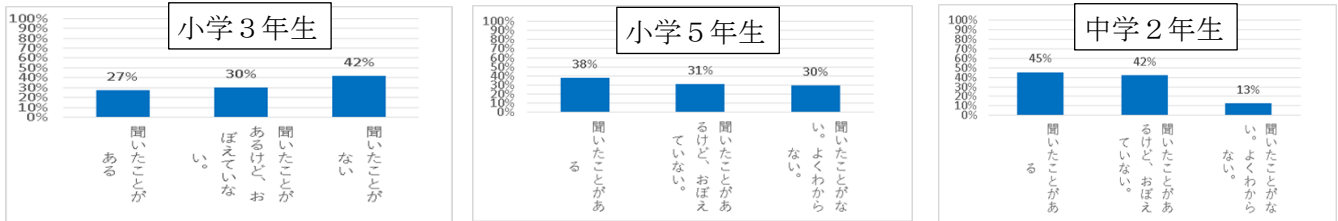
どの学年でも噴火と溶岩流への回答が高くなっており、富士山が火山であり、火山災害についてより意識が高まっている回答になったと思われる。

本地域では、頻繁に起きる災害はなく、体験していない。そのため災害については具体的なイメージがあまりない。したがって、まず、自分が住んでいる地域における災害の可能性や規模について、さらに防災についての学習を仕組んでいく必要がある。

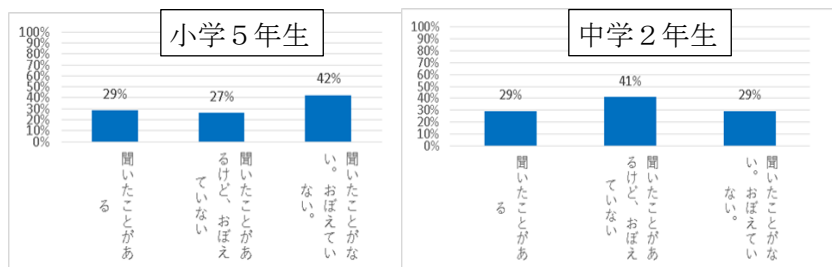
質問4① 富士山が噴火した際のことを家族で話し合ったことがあるか



質問4② 富士山が噴火したときどうしたらよいか



質問4③ 富士山が噴火したときの避難場所をきいたことがあるか



富士山が噴火した時どうするか、家族で話し合ったことがあると回答した児童生徒は40%に満たない。

噴火したときの避難行動についても同様の状況で、40%に満たない。

噴火時の避難場所について、「知っている」が5年生と中学2年生いずれも約30%にとどまった。

これらのことから、今後、防災教育プログラムを学校、家庭、町全体で計画的に取り入れていくことが望まれる。

また、防災教育を行う際、富士山噴火の危険性について正しい知識とその対応について学ぶことをセットで進めていき、さらに、いざというときの対応がわかるような資料の作成とその利用の呼びかけが必要である。

5 まとめ

富士山に関する防災学習については、富士山学習研究会の事業としても今年度緒に就いたばかりです。「家庭で富士山が噴火した際のことを話し合ったことがあるか」「富士山が噴火したときどうしたらよいか」「富士山が噴火したときの避難場所をきいたことがあるか」の割合がいずれも50%に満たない状態でした。このことから、火山としての富士山は理解しているものの、自分が住んでいる地域における災害の可能性や規模について、さらには災害からどのように生命や生活を守るかの方法については十分な理解が得られていないという課題が明らかになりました。このことは、子どもたちだけではなく、大人も同じことが言えるのではないのでしょうか。

今後、学校においてさらに防災教育を推進していく必要があります。さらには家庭や地域で富士山噴火に対する防災意識を高める取組が必要であると考えます。

学校、家庭、地域が一体となって防災意識の向上を！